

保健衛生担当

委員名

鏡 諭

佐々木 陽一

岩崎 隆一

佐野 まさ子

山里 景哲

鎌形 由美子

分野全体に関する意見・感想

事業の運営等に関して

法律に基づいて実施しなければならない事から、区としての独自性を出すことが困難なことは十分に理解できる。そのような中でも、制度の理念をよく踏まえたくて墨田区としてのポリシーをきちんと持って、事業運営することが必要である。

この分野の事業は、全て個人の健康や利益を維持管理していく事を組み立てている事業である。個人の健康に対して行政がどこまで立ち入るのかの議論は難しいところである。各事業にはそれぞれ歴史的経緯があるが、その時々時代の背景を考慮し改善することが望ましいと感じている。

評価シートの記載方法や評価の仕方について

国の制度に基づく事業が多く、区民が評価することの難しさを感じた。この分野については、特に区がポリシーを持って目標を具体的に明示し、成果指標を具体的にしていくことが、区民が事業継続を判断するために必要な条件である。

評価自体が難しい分野だが、例えば特定健診によってどれだけ医療費が軽減されたかなど、適切な指標を見つけることで事業の正当性を示すことができる。

各事務事業の評価

保健衛生分野の対象事業一覧

- (1) 食育の推進事業 (施策番号 461)
- (2) 特定健診、特定保健指導事業 (施策番号 461)
- (3) 公衆浴場衛生設備助成 (施策番号 462)
- (4) 飼い主のいない猫に対する不妊手術等助成事業 (施策番号 462)
- (5) 心の健康づくり対策事業 (施策番号 461)
- (6) 介護予防事業 (施策番号 461)

(1) 食育の推進事業【事務事業評価結果】

平成23年度 事務事業評価シート

番号 1

事務事業名	食育の推進事業		所管課	保健計画課保健計画担当
施策	461	区民一人ひとりの健康づくりを支援する	連絡先	3504
予算書名称	食育の推進経費			

1. 事業の目的・手段(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】誰(何)を対象としているのか
乳幼児から高齢者まで、すべての区民
【目標】この事業によって対象をどのような状態にしたいのか
みんなが健康でたのしい食環境を通じて豊かな人生をおくることができるようにする。
【手段】どのような方法で目標を達成するのか(具体的な事業内容)
墨田区食育推進計画(平成19年6月策定)、チャレンジプラン(平成22年4月策定)に基づき以下の方法で行う。 ①食育推進ネットワーク会議の設置:墨田区区内食育推進会議・すみだ食育推進会議 ②主体的に食育を推進する区民の育成:食育推進リーダー育成講習会 ③協働による食育普及啓発の展開:食育フェスティバル、食育教室、食育講演会&シンポジウム ④地域の食育を推進する「民」のしくみづくり:「すみだ食育goodネットの推進」

2. 予算・決算状況(金額の単位はすべて千円)

科目	款	衛生費	項	区民健康費	目	健康づくり推進費	
22年度 予算額		4,775	22年度 決算額	A	4,522	執行率	94.7%
財源内訳 (決算)	国庫支出金	都支出金	特定財源	基金	起債	一般財源	計
	0	1,292	0	0	0	3,230	4,522
受益者負担	無	負担内容			受益者負担合計		
担当職員数	2	年間仕事量(人工)		1.3	人コスト(常勤)		B 11,050
非常勤報酬 (決算)	0	他事業との按分(%)		0	人コスト(非常勤)		C 0
総コスト	A+B+C 15,572		前年度コスト		12,531	前年度比	3,041
補助金 *複数ある場合は 代表的なもの (その他補助金は 一覧に記載)	有	補助金名称		すみだ食育goodネット補助金			
	□複数有り (補助金一 覧に記載)	22年度 予算額	2,658	補助対象	すみだ食育goodネット		
		22年度 実績額	2,658	算定基準・補 助率	各年度の収支予算、事業計画を元に必要と思われる 経費について補助。		
	補助開始 年度	H22	根拠法令	要綱等はない。 各年度ごとに、起案をたてて補助金を支出。			
委託の有無	有	委託費実績額	382	委託の概要	地域応援サイト「いっしょにネット」掲載記事取材委託 すみだ食育フェスティバル、食育児講演会の会場設営委託		

3. 事業開始からこれまでの経過

事業年度	開始年度	平成19年	終了予定	未定	経過期間	4年
実施根拠及び事業開始の経緯を踏まえたこれまでの事業の変遷						
【実施根拠】食育基本法(平成17年6月)、墨田区食育推進計画(平成19年6月)、チャレンジプラン(平成22年4月策定)に基づき区民運動と協働による「すみだらしい食育文化が育つまちづくり」の推進を目指す。 【事業の変遷】①平成19年度:墨田区食育推進計画を策定し、食育パネル展と食育講演会を実施。②平成20年度:食育の専任を置き本格的に実施、墨田区区内食育推進会議、すみだ食育推進会議を設置、食育推進リーダーの育成(20名)と区を中心とした協働の食育推進事業を各種展開。③平成21年度:食育推進リーダー会発足、食育推進リーダーの育成(17名)、民主体型による協働の食育推進事業への転換、農林水産省のモデル事業をコラボ型にて実施。(仮称)すみだ食育協力店「すみだ食育goodネット」設立の検討、チャレンジプラン(案)の検討・作成。④平成22年度:「すみだ食育goodネット」の設立、各種活動支援、活動冊子の作成、食育推進リーダー会活動支援、食育推進リーダーの育成(15名)、墨田区食育推進計画改定準備意見交換会の実施、計画改定体制の検討。						

平成23年度 事務事業評価シート

4. これまでの実績

(1)実績をあらわす指標と実績値

指標名(指標の説明)	単位	年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
すみだ食育フェスティバル参加者	人	実績値	事業なし	1,856	3,830	4,768
		実績値				
		決算額	1,844	2,297	2,851	4,522

(2)事業の進捗分析

目標の達成に向けた事業の進捗状況とその分析(指標分析と事業実績の要因分析)

【定量的評価】食育フェスティバル参加者は平成20年度1856人、平成21年度3830人、平成22年度4768人と参加者が増加。
 【定性的評価】食育フェスティバルの企画・運営 平成20年度は区主導型、平成21年度は民主主体型、平成22年度は民主主体型へ移行。食育推進リーダーを育成し、平成20年度は20名、平成21年度は17名、平成22年度は15名修了し、平成21年度に食育推進リーダー会を発足し、区民主体の活動へ展開。区民・地域団体・NPO・企業・大学等と区の協働による食育推進の基盤づくりと、新たな「民」のしくみとして「すみだ食育goodネット」を設立し食育活動を実施。

5. 視点別の評価(担当者評価)

前年度評価

(1)事業の必要性	評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	A
①事業へのニーズはどのように変化しているか		<input checked="" type="checkbox"/> 増大 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少	
②区が事業を実施すべき強い理由があるか		<input checked="" type="checkbox"/> 強い理由 <input type="checkbox"/> 理由あり <input type="checkbox"/> 検討の余地有り	
③事業を休止・中止した場合の影響はどうか		<input checked="" type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 中程度 <input type="checkbox"/> 小さい	
(2)事業の有効性	評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①指標の実績値は向上しているか		<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少	
②施策目標を達成するための効果的な手段であるか		<input checked="" type="checkbox"/> 最も効果的 <input type="checkbox"/> 概ね適切 <input type="checkbox"/> 適切とはいえない	
(3)事業の効率性	評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	C
①関連・類似事業との統合は可能か		<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 検討可能	
②事業にかかる経費は低減しているか		<input type="checkbox"/> 低減 <input type="checkbox"/> 横ばい <input checked="" type="checkbox"/> 増加	
③受益者負担は適正か		<input checked="" type="checkbox"/> 負担増困難 <input type="checkbox"/> 妥当 <input type="checkbox"/> 要検討 <input type="checkbox"/> 非該当	
(4)協働の可能性・協働化の現状	評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	A
①区民との協働実施を進めることが可能か		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み <input type="checkbox"/> 実施困難 <input type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能	
②民間への外部化(委託等)は可能か		<input type="checkbox"/> 実施済み <input checked="" type="checkbox"/> 実施困難 <input type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能	
③協働(委託・補助)相手先の実績向上に向けた取り組み		<input checked="" type="checkbox"/> 行った <input type="checkbox"/> 特に行っていない <input type="checkbox"/> 非該当	

6. 総合評価(課長評価)

A: 効果が高く、拡充による更なる効果拡大も期待できる(拡充)

【前年度評価】 A(拡充)

【評価の理由】 どの視点を重視して総合評価を行ったのか、昨年度との相違、及び目標達成に向けた今後の取り組み
 食育活動は、代表的な一次予防の取り組みとして区民の生活習慣病予防にも大きく寄与している。また、行政と区民との協働事業として、区民主体の事業展開が順調に拡大してきている。今後も、区の目指す協治(ガバナンス)の考え方を最も体现した取り組みとして充実を図っていきたい。
 なお、23年度は食育推進計画の改定年度にあたることから、特に経費を拡充している。

※外部評価終了後に記入

【外部評価委員会からの指摘事項】

【指摘事項の反映と今後の方向性】

(1) 食育の推進事業【区民行政評価結果】

事業の目的・手段、実績（指標）に関する指摘事項

「目標」の内容を具体的に設定することが望ましい。そうすることで効果をより捕捉しやすくなる。

視点別の評価（事業の必要性・有効性・効率性、協働の可能性等）に関する指摘

事業の必要性は十分に理解できる。時代や状況の変化に対応していける事業にすることで「一過性の食育」ではなく、長期にわたり継続していくことが可能になると思われる。そのためのアフターフォローとして、例えばレシピの配布などを行うことも事業継続の重要な点であると思われる。

参加者アンケートなどを実施し、定性的なデータがあると評価もしやすくなる。中高年男性の生活習慣病の減少といったアウトカムがあれば、目的と対象が明らかとなり、指標化が可能となる。

ホームページは充実していて、良いと思われる。区民の関心の高い分野で協働になじみやすいと思うので、より一層のPRを期待している。特に、中高年の関心が高いとのことなので、さらに区報等も充実させ発信していくことで多くの区民に周知できると思われる。

受益者負担の割合を増やすべきであると思われる。また、フェスティバルやすみだ good ネットなど、主体性をもった団体による事業は、それぞれの団体が中心となって動く形にし、区は費用対効果を見ながら支援していく姿勢が望ましいと感じる。

事務事業評価シートによると、平成23年度に食育推進計画を改定するため「拡充」との総合評価であるが、そこで「改定年度で実施すべきこと」を提示することが必要となる。その際、放射線の問題で「食に対する安全・安心」への関心が高まっていることから、何らかの対応策を講じることを提案したい。

「食育」というカテゴリーを行政がどこまで取り組むべきかどうか。対象について、学齢期の児童・生徒に対してであるなら理解できるが、一般の方や高齢者に対しては食育が政策として当然必要であるとしても、その必要性や目的を区民が理解できるように示すべきではないか。

総合評価に関する指摘事項

食育は予防的医学にも繋がること、さらに家庭内の融和に繋がるため、事業の必要性・重要性は十分に理解できる。

(2) 特定健診・特定保健指導事業【事務事業評価結果】

平成23年度 事務事業評価シート

番号 2

事務事業名	墨田区国民健康保険特定健康診査		所管課	保健計画課
施策	461	区民一人ひとりの健康づくりを支援する	連絡先	3531
予算書名称	医師会委託費(健診業務委託)、特定高齢者把握事業費、特定健康診査費(上乘せ健診分)他			

1. 事業の目的・手段(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか
40歳～74歳までの墨田区国民健康保険被保険者(実施年度中に75歳に到達する墨田区国民健康保険被保険者で9月～3月生まれの方を含む)
【目標】 この事業によって対象をどのような状態にしたいのか
生活習慣病を予防・早期発見・早期治療し、健康で介護を必要せずに過ごしている。
【手段】 どのような方法で目標を達成するのか(具体的な事業内容)
対象者に受診票を送付し、区内の指定の医療機関で受診していただく。受診することで生活習慣病の予防と早期発見、早期治療につなげる。また、65歳以上の方で介護が必要となる恐れのある方を把握し、高齢者福祉課の介護予防事業につなげる。

2. 予算・決算状況(金額の単位はすべて千円)

科目	款	衛生費、保健事業費、地域支援事業費	項	区民健康診査、特定健診等事業費、介護予防事業費	目	区民健康診査費、特定健診等事業費、介護予防事業費	
22年度 予算額		376,831	22年度 決算額	A	339,267	執行率	90.0%
財源内訳 (決算)	国庫支出金	都支出金	特定財源	基金	起債	一般財源	計
	0	0	219,797	0	0	119,470	339,267
受益者負担	無	負担内容			受益者負担合計		
担当職員数	2	年間仕事量(人工)		1	人コスト(常勤)		B 8,500
非常勤報酬 (決算)	2,219	他事業との按分(%)		40	人コスト(非常勤)		C 888
総コスト	A+B+C 348,655		前年度コスト		320,272	前年度比	28,383
補助金 *複数ある場合は代表的なものを(その他補助金は一覧に記載)	無	補助金名称					
	□複数有り (補助金一覧に記載)	22年度 予算額	0	補助対象			
		22年度 実績額	0	算定基準・補助率			
		補助開始 年度		根拠法令			
委託の有無	有	委託費実績額	330,655	委託の概要	健診業務委託、受診票類作成及び封入封緘委託		

3. 事業開始からこれまでの経過

事業年度	開始年度	平成20年度	終了予定	なし	経過期間	3年
実施根拠及び事業開始の経緯を踏まえたこれまでの事業の変遷						
<p>実施根拠: 高齢者の医療の確保に関する法律、介護保険法第115条の38。 開始経緯: 平成20年4月の医療制度改革に伴い、高齢者の医療の確保に関する法律が改正され、医療保険者は40歳以上の加入者に特定健診を行うことが義務付けられた。また、老人保健事業の廃止により、生活機能評価は健診と同時に実施する。</p>						

平成23年度 事務事業評価シート

4. これまでの実績

(1)実績をあらわす指標と実績値

指標名(指標の説明)	単位	年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
墨田区国民健康保険特定健康診査受診者数	人	実績値	—	21,946	21,774	24,063
墨田区国民健康保険特定健康診査受診率	%	実績値	—	44.7	42.6	47.2
		決算額	—	314,582	311,472	339,267

(2)事業の進捗分析

目標の達成に向けた事業の進捗状況とその分析(指標分析と事業実績の要因分析)

平成22年度の受診率は47.2%であり、21年度と比較すると上がっている。受診人数も同様に上がっている。事業開始から3年経過し、事業自体の認知度は上がってきている。今後も事業の更なる周知、積極的な受診勧奨などが必要である。

5. 視点別の評価(担当者評価)

			前年度評価
(1)事業の必要性	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①事業へのニーズはどのように変化しているか	<input type="checkbox"/> 増大 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少		
②区が事業を実施すべき強い理由があるか	<input checked="" type="checkbox"/> 強い理由 <input type="checkbox"/> 理由あり <input type="checkbox"/> 検討の余地有り		
③事業を休止・中止した場合の影響はどうか	<input checked="" type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 中程度 <input type="checkbox"/> 小さい		
(2)事業の有効性	評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	C
①指標の実績値は向上しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少		
②施策目標を達成するための効果的な手段であるか	<input checked="" type="checkbox"/> 最も効果的 <input type="checkbox"/> 概ね適切 <input type="checkbox"/> 適切とはいえない		
(3)事業の効率性	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①関連・類似事業との統合は可能か	<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 検討可能		
②事業にかかる経費は低減しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 低減 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 増加		
③受益者負担は適正か	<input type="checkbox"/> 負担増困難 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当 <input type="checkbox"/> 要検討 <input type="checkbox"/> 非該当		
(4)協働の可能性・協働化の現状	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	A
①区民との協働実施を進めることが可能か	<input type="checkbox"/> 実施済み <input checked="" type="checkbox"/> 実施困難 <input type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能		
②民間への外部化(委託等)は可能か	<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み <input type="checkbox"/> 実施困難 <input type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能		
③協働(委託・補助)相手先の実績向上に向けた取組み	<input checked="" type="checkbox"/> 行った <input type="checkbox"/> 持に行っていない <input type="checkbox"/> 非該当		

6. 総合評価(課長評価)

B:効果が高く、手段の見直しでさらに効果拡大が期待できる(改善)

【前年度評価】 B(改善)

【評価の理由】 どの視点を重視して総合評価を行ったのか、昨年度との相違、及び目標達成に向けた今後の取組み啓発や受診勧奨方法の強化・改善により、受診率の向上を図っていく必要がある。

※外部評価終了後に記入

【外部評価委員会からの指摘事項】

【指摘事項の反映と今後の方向性】

平成23年度 事務事業評価シート

番号	2
----	---

事務事業名	特定保健指導事業		所管課	保健計画課
施策	461	区民一人ひとりの健康づくりを支援する	連絡先	3533
予算書名称	特定保健指導事業費			

1. 事業の目的・手段(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか
40～74歳までの墨田区国民健康保険の被保険者のうち 特定健康診査等の結果から厚生労働省の基準に基づき、動機付け支援・積極的支援に階層化された者
【目標】この事業によって対象をどのような状態にしたいのか
生活習慣病の発症または進行を予防し、健康を維持および増進することができる。
【手段】 どのような方法で目標を達成するのか(具体的な事業内容)
①特定健康診査の結果から、メタボリックシンドロームの該当者および予備郡となったものに対し、特定保健指導の利用券を送付、希望者に対し専門職による個別指導および6ヶ月間のフォローを実施する。 ②墨田区受診勧奨値に該当する者に対しては、受診勧奨を行っていく

2. 予算・決算状況(金額の単位はすべて千円)

科目	款	保険事業費	項	特定健康診査等事業費	目	特定健康診査等事業費	
22年度 予算額		70,707	22年度 決算額	A	15,167	執行率	21.5%
財源内訳 (決算)	国庫支出金	都支出金	特定財源	基金	起債	一般財源	計
	0	0	15,167	0	0	0	15,167
受益者負担	無	負担内容			受益者負担合計		
担当職員数	2	年間仕事量(人工)		1.4	人コスト(常勤)		B 11,900
非常勤報酬 (決算)		他事業との按分(%)			人コスト(非常勤)		C 0
総コスト	A+B+C 27,067		前年度コスト		32,169	前年度比	▲ 5,102
補助金 *複数ある場合は 代表的なもの (その他補助金は 一覧に記載)	無	補助金名称					
	<input type="checkbox"/> 複数有り (補助金一 覧に記載)	22年度 予算額	0	補助対象			
		22年度 実績額	0	算定基準・補 助率			
		補助開始 年度		根拠法令			
委託の有無	有	委託費実績額	12,385	委託の概要	特定保健指導の実施委託		

3. 事業開始からこれまでの経過

事業年度	開始年度	H20年度	終了予定	なし	経過期間	3年
実施根拠及び事業開始の経緯を踏まえたこれまでの事業の変遷						
高齢者の医療の確保に関する法律に基づきH20年度より実施している						

平成23年度 事務事業評価シート

4. これまでの実績

(1) 実績をあらわす指標と実績値

指標名(指標の説明)	単位	年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
特定保健指導者に対する指導実施率	%	実績値	—	27	26	18
特定保健指導修了者数(22年度は進行中)	人	実績値	—	767	614	
		決算額	—	15,285	19,849	15,167

(2) 事業の進捗分析

目標の達成に向けた事業の進捗状況とその分析(指標分析と事業実績の要因分析)

3年経過する中で、保健指導に参加する対象者の健康度は上がっているが、未参加者が毎年蓄積され、実施率低下の一因となっている。23年度は、電話による利用勧奨を行い、個別訪問による指導、特定保健指導実施会場を増加することで改善を図る。

5. 視点別の評価(担当者評価)

5. 視点別の評価(担当者評価)			前年度評価
(1) 事業の必要性	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	A
①事業へのニーズはどのように変化しているか		<input type="checkbox"/> 増大 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少	
②区が事業を実施すべき強い理由があるか		<input checked="" type="checkbox"/> 強い理由 <input type="checkbox"/> 理由あり <input type="checkbox"/> 検討の余地有り	
③事業を休止・中止した場合の影響はどうか		<input checked="" type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 中程度 <input type="checkbox"/> 小さい	
(2) 事業の有効性	評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①指標の実績値は向上しているか		<input type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input checked="" type="checkbox"/> 減少	
②施策目標を達成するための効果的な手段であるか		<input type="checkbox"/> 最も効果的 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適切 <input type="checkbox"/> 適切とはいえない	
(3) 事業の効率性	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①関連・類似事業との統合は可能か		<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 検討可能	
②事業にかかる経費は低減しているか		<input type="checkbox"/> 低減 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 増加	
③受益者負担は適正か		<input type="checkbox"/> 負担増困難 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当 <input type="checkbox"/> 要検討 <input type="checkbox"/> 非該当	
(4) 協働の可能性・協働化の現状	評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①区民との協働実施を進めることが可能か		<input type="checkbox"/> 実施済み <input checked="" type="checkbox"/> 実施困難 <input type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能	
②民間への外部化(委託等)は可能か		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み <input type="checkbox"/> 実施困難 <input type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能	
③協働(委託・補助)相手先の実績向上に向けた取組み		<input checked="" type="checkbox"/> 行った <input type="checkbox"/> 持に行っていない <input type="checkbox"/> 非該当	

6. 総合評価(課長評価)

B: 効果が高く、手段の見直しでさらに効果拡大が期待できる(改善)

【前年度評価】 B(改善)

【評価の理由】 どの視点を重視して総合評価を行ったのか、昨年度との相違、及び目標達成に向けた今後の取組み

23年度は電話による利用勧奨を開始したが、その結果等も踏まえ、さらなる啓発・勧奨方法の工夫を検討していく。

※外部評価終了後に記入

【外部評価委員会からの指摘事項】

【指摘事項の反映と今後の方向性】

(2) 特定健診・特定保健指導事業【区民行政評価評価結果】

事業の目的・手段、実績（指標）に関する指摘事項

受診者には正しく受けている人とそうでない人がいる。今後は、後者について、受診できない理由を把握し、受診率を上げるための目標設定と進捗の捕捉をすることで、より受診率の向上につながるものと思われる。

手段として「65歳以上で介護が必要な者を把握し、高齢者福祉課の介護予防事業のつなげる」とあるが、対象を40～65歳に絞ることを検討しても良いと思われる。他方、65～75歳については別途高齢者枠のようなものを設けることも提案したい。

視点別の評価（事業の必要性・有効性・効率性、協働の可能性等）に関する指摘

医師会などと単価契約を結んでいるようだが、その契約費用の適正性を適宜確認して事業を進めていく必要がある。

土日営業している病院が限られていることもあり、受け手側の意見としては、受診機会の増加することを期待している。

総合評価に関する指摘事項

「要改善」とされており、対象者を受診に結びつける点について苦慮している様子は十分にうかがえた。民生委員、自治会などのきめ細かな情報提供が必要になる。今後多くの方に受診をして頂くように事業の説明や受診の効果を訴える機会を確保して需要の拡大を図られたらいいか。

受診期間を延長するなど受診率を上げようと努力している点は十分に評価できる。そこで、区が直接行うよりも、医療実施者に委託して対象者に直接補助できる形式にすることも検討の視野に入れてもらいたいと思う。

「啓発や受診勧奨方法の強化・改善」とあるが、この点についてはより具体的な内容を記載し、その目標達成に向けた取り組みを行うことが重要である。

(3) 公衆浴場衛生設備助成【事務事業評価結果】

平成23年度 事務事業評価シート

番号 3

事務事業名	公衆浴場衛生設備助成		所管課	保健計画課
施策	462	生活衛生の安全を確保する	連絡先	3502
予算書名称	公衆浴場衛生設備改善助成費			

1. 事業の目的・手段(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか
墨田区内で公衆浴場を営む者
【目標】 この事業によって対象をどのような状態にしたいのか
公衆浴場の経営の安定を図り、もって区民の保健衛生の維持向上に資する。
【手段】 どのような方法で目標を達成するのか(具体的な事業内容)
公衆浴場の衛生及び風紀に必要な措置等を講ずるための設備を改善するための資金の一部を助成する。

2. 予算・決算状況(金額の単位はすべて千円)

科目	款	衛生費	項	環境衛生費	目	環境衛生費	
22年度 予算額		5,500	22年度 決算額	A	5,386	執行率	97.9%
財源内訳 (決算)	国庫支出金	都支出金	特定財源	基金	起債	一般財源	計
	0	0	0	0	0	5,386	5,386
受益者負担	無	負担内容		受益者負担合計			
担当職員数	1	年間仕事量(人工)		0.01	人コスト(常勤)	B	85
非常勤報酬 (決算)		他事業との按分(%)			人コスト(非常勤)	C	0
総コスト	A+B+C		5,471	前年度コスト	5,561	前年度比	▲ 90
補助金 *複数ある場合は 代表的なもの (その他補助金は 一覧に記載)	有	補助金名称		公衆浴場衛生設備改善資金助成			
	<input type="checkbox"/> 複数有り (補助金一 覧に記載)	22年度 予算額	5,500	補助対象	墨田区内で公衆浴場を営む者		
		22年度 実績額	5,386	算定基準・補 助率	1浴場につき50万円		
		補助開始 年度	S56	根拠法令	墨田区公衆浴場衛生設備改善資金助成要綱		
委託の有無	無	委託費実績額	0	委託の概要			

3. 事業開始からこれまでの経過

事業年度	開始年度	昭和56年	終了予定	予定なし	経過期間	30年
実施根拠及び事業開始の経緯を踏まえたこれまでの事業の変遷						
<p>墨田区公衆浴場衛生設備改善資金助成要綱による。 助成額は、要綱制定時の昭和56年に1浴場30万円からスタートし、その後増額を重ね平成12年に1浴場50万円になった。(要綱上は、1浴場60万円を限度として、区長が定める額としている。) 助成対象設備については、組合の要望に応じて随時追加しながら、平成22年に衛生及び風紀に必要な措置等を講ずるために行う設備改善経費やバリアフリー、耐震補強等の経費についても対象とした。</p>						

平成23年度 事務事業評価シート

4. これまでの実績

(1)実績をあらわす指標と実績値

指標名(指標の説明)	単位	年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
助成浴場	数	実績値	11	11	11	11
		実績値				
		決算額	11	11	11	11

(2)事業の進捗分析

目標の達成に向けた事業の進捗状況とその分析(指標分析と事業実績の要因分析)

東京都公衆浴場業生活衛生同業組合墨田支部との調整を行い、毎年度助成対象が11浴場と限られているが、そのすべてが申請されている。

5. 視点別の評価(担当者評価)

5. 視点別の評価(担当者評価)			前年度評価
(1)事業の必要性	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①事業へのニーズはどのように変化しているか	<input type="checkbox"/> 増大 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少		
②区が事業を実施すべき強い理由があるか	<input type="checkbox"/> 強い理由 <input checked="" type="checkbox"/> 理由あり <input type="checkbox"/> 検討の余地有り		
③事業を休止・中止した場合の影響はどうか	<input checked="" type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 中程度 <input type="checkbox"/> 小さい		
(2)事業の有効性	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①指標の実績値は向上しているか	<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少		
②施策目標を達成するための効果的な手段であるか	<input type="checkbox"/> 最も効果的 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適切 <input type="checkbox"/> 適切とはいえない		
(3)事業の効率性	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①関連・類似事業との統合は可能か	<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 検討可能		
②事業にかかる経費は低減しているか	<input type="checkbox"/> 低減 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 増加		
③受益者負担は適正か	<input type="checkbox"/> 負担増困難 <input type="checkbox"/> 妥当 <input type="checkbox"/> 要検討 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当		
(4)協働の可能性・協働化の現状	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①区民との協働実施を進めることが可能か	<input type="checkbox"/> 実施済み <input checked="" type="checkbox"/> 実施困難 <input type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能		
②民間への外部化(委託等)は可能か	<input type="checkbox"/> 実施済み <input checked="" type="checkbox"/> 実施困難 <input type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能		
③協働(委託・補助)相手先の実績向上に向けた取組み	<input type="checkbox"/> 行った <input checked="" type="checkbox"/> 時に行っていない <input type="checkbox"/> 非該当		

6. 総合評価(課長評価)

C効果は高いが、拡充しても効果拡大までは期待できない(維持)

【前年度評価】 C(維持)

【評価の理由】 どの視点を重視して総合評価を行ったのか、昨年度との相違、及び目標達成に向けた今後の取組み

公衆浴場の地域における役割と、経営環境の厳しさを考慮すると、設備の経年劣化等に対応して、今後も毎年度一定の支援は必要である。

※外部評価終了後に記入

【外部評価委員会からの指摘事項】

【指摘事項の反映と今後の方向性】

(3) 公衆浴場衛生設備助成【区民行政評価結果】

事業の目的・手段、実績（指標）に関する指摘事項

引き続き公的資金を投入する意味が問われてくるので、実際の利用者数と公衆浴場の収支は把握しておく必要があると思われる。今後も事業を継続するのであれば、それに見合うデータの収集に努めて、分析していくことが重要である。

視点別の評価（事業の必要性・有効性・効率性、協働の可能性等）に関する指摘

内風呂増加で利用者は減っているが、実は入浴券をもらったのをきっかけに行ってみようという方もいれば、すでに銭湯巡りをしているような方もいる。また、自分の周りには多くの高齢の方も、（入浴券で銭湯に行くのを）楽しみにしているようである。継続するに値する事業であるので、関連する部局内において連携し、利用者を増やすことで助成に対する理解を得たら良いのではないか。

公衆浴場の性格から、これまで助成をしてきた経緯は理解できる。金額も見直しを重ねて、現在の50万円に落ち着いたと推測するが、今後も引き続き適当な額か精査し続けていくことは必要である。

年額50万円の補助金額を多いとみるか少ないとみるかで意見は分かれるが、設備更新を踏まえれば決して多い額ではない。ただ、重複する施策はまとめて統合して補助金として交付するやり方を考えても良い。助成内容によって金額にメリハリを付けることも検討すべき時期に来ている。

浴場立地の地域的な偏りがあり、区民全体の利益を考えた場合、特定地域に固まった浴場に対する助成が果たして区全体の利益として理解を得られるのか、という点については十分に検討を重ねていく必要があると思われる。助成のあり方などについて視野に入れた検討も考えられる。

総合評価に関する指摘事項

地域の人々の交流の場として維持できるようにして頂きたい。また、利用者数の実態を調べて対策の充実を図ってはいかがか。

(4) 飼い主のいない猫に対する不妊手術等助成事業【事務事業評価結果】

平成23年度 事務事業評価シート

番号	4
----	---

事務事業名	飼い主のいない猫に対する不妊手術等助成事業	所管課	生活衛生課
施策	462 生活衛生の安全を確保する	連絡先	3582
予算書名称	飼い主のいない猫に対する不妊去勢手術費助成経費		

1. 事業の目的・手段(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか
区民
【目標】 この事業によって対象をどのような状態にしたいのか
区内に生息する飼い主のいない猫による被害及び迷惑を未然に防止し、良好な生活環境を保持するとともに、動物愛護の思想の普及を行い、人と動物の調和のとれた社会の実現をめざす。
【手段】 どのような方法で目標を達成するのか(具体的な事業内容)
飼い主のいない猫の繁殖を抑え、生活環境改善にむけて問題を地域で解決する活動支援のため、不妊去勢手術の資金を一定程度助成する。

2. 予算・決算状況(金額の単位はすべて千円)

科目	款	衛生費	項	環境衛生費	目	狂犬病予防費
22年度 予算額		3,701	22年度 決算額	A	3,673	執行率 99.2%
財源内訳 (決算)	国庫支出金	都支出金	特定財源	基金	起債	一般財源 計
	0	0	0	0	0	3,673 3,673
受益者負担	無	負担内容			受益者負担合計	
担当職員数	2	年間仕事量(人工)		0.2	人コスト(常勤)	B 1,700
非常勤報酬 (決算)		他事業との按分(%)			人コスト(非常勤)	C 0
総コスト	A+B+C	5,373	前年度コスト		4,854	前年度比 519
補助金 *複数ある場合は代表的なもの(その他補助金は一覧に記載)	有	補助金名称		飼い主のいない猫の不妊手術等費用助成		
	<input type="checkbox"/> 複数有り(補助金一覧に記載)	22年度 予算額	3,600	補助対象	飼い主のいない猫に手術を受けさせる区民	
		22年度 実績額	3,596	算定基準・補助率	手術費用の2分の1(オス猫5000円、メス猫10000円を上限)	
		補助開始 年度	H18	根拠法令	墨田区飼い主のいない猫の不妊手術等費用助成事業実施要綱	
委託の有無	無	委託費実績額	0	委託の概要		

3. 事業開始からこれまでの経過

事業年度	開始年度	H18	終了予定	未定	経過期間	5年
実施根拠及び事業開始の経緯を踏まえたこれまでの事業の変遷						
墨田区飼い主のいない猫の不妊手術等費用助成事業実施要綱に基づき、平成18年7月より実施している。						

平成23年度 事務事業評価シート

4. これまでの実績

(1)実績をあらわす指標と実績値

指標名(指標の説明)	単位	年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
助成金支出件数	件	実績値	267	312	387	449
飼い主のいない猫による生活環境悪化に関する苦情件数	件	実績値	127	152	70	56
		決算額	2,293	2,520	3,596	3,673

(2)事業の進捗分析

目標の達成に向けた事業の進捗状況とその分析(指標分析と事業実績の要因分析)

事業開始から毎年申請者・手術数は増加している。飼い主のいない猫による被害を減らすためには繁殖を抑えることが重要であると区民に認知・理解されてきたと思われる。昨年度から苦情件数も減少した。また、助成金申請者が苦情対応し、地域内で解決させている事例もでてきている。

5. 視点別の評価(担当者評価)

前年度評価

(1)事業の必要性	評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	A
①事業へのニーズはどのように変化しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 増大 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少		
②区が事業を実施すべき強い理由があるか	<input type="checkbox"/> 強い理由 <input checked="" type="checkbox"/> 理由あり <input type="checkbox"/> 検討の余地有り		
③事業を休止・中止した場合の影響はどうか	<input checked="" type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 中程度 <input type="checkbox"/> 小さい		
(2)事業の有効性	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①指標の実績値は向上しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少		
②施策目標を達成するための効果的な手段であるか	<input type="checkbox"/> 最も効果的 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適切 <input type="checkbox"/> 適切とはいえない		
(3)事業の効率性	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①関連・類似事業との統合は可能か	<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 検討可能		
②事業にかかる経費は低減しているか	<input type="checkbox"/> 低減 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 増加		
③受益者負担は適正か	<input type="checkbox"/> 負担増困難 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当 <input type="checkbox"/> 要検討 <input type="checkbox"/> 不該当		
(4)協働の可能性・協働化の現状	評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	A
①区民との協働実施を進めることが可能か	<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み <input type="checkbox"/> 実施困難 <input type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能		
②民間への外部化(委託等)は可能か	<input type="checkbox"/> 実施済み <input checked="" type="checkbox"/> 実施困難 <input type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能		
③協働(委託・補助)相手先の実績向上に向けた取組み	<input checked="" type="checkbox"/> 行った <input type="checkbox"/> 持に行っていない <input type="checkbox"/> 該当		

6. 総合評価(課長評価)

C効果は高いが、拡充しても効果拡大までは期待できない(維持)

【前年度評価】 C(維持)

【評価の理由】 どの視点を重視して総合評価を行ったのか、昨年度との相違、及び目標達成に向けた今後の取組み

本助成制度は広く認知されてきており、助成申請件数も伸びている。しかし、助成制度を充実させるだけでは問題解決にはつながらない。

飼い主のいない猫の供給源となる捨て猫を防止する必要性については、助成金申請者に認識されており、今後は、飼い猫についての適正飼育の啓発をこれら区民との協働で行っていく。

※外部評価終了後に記入

【外部評価委員会からの指摘事項】

【指摘事項の反映と今後の方向性】

(4) 飼い主のいない猫に対する不妊手術等助成事業【区民行政評価結果】

事業の目的・手段、実績（指標）に関する指摘事項

不妊手術をするという手段を通じて、糞尿やえさやりトラブルの減少につながっている点は評価できる。しかし飼い主のモラルの問題も考慮すべきことから、不妊手術と結び付け、この事業の効果が大きくなるように努めていく必要がある。去勢しても再び同じ場所に猫が戻れば野良猫として放置されてしまい、糞尿や餌やりの問題は継続して生じてしまう。

視点別の評価（事業の必要性・有効性・効率性、協働の可能性等）に関する指摘

視点別評価の(2) が「概ね適切」になっているが、助成制度を充実させるだけでは問題解決にはならず、事業の継続に限界があると思われる。その点について、総合評価欄で今後の対応について言及すべきである。

この事業の対象者（申請者）が常に特定の方に偏ることのないよう、対策やPRが必要と思われる。

これら（飼い主のいない猫）に対し、餌をあげて面倒を見ているような方々への指導なども必要となるのではないか。

総合評価に関する指摘事項

事業目的に対する進捗の把握は適切だと思うが、本質的な問題解決に必要なのは飼い主のモラル改善に向けた啓発活動である。

飼い主のモラルもあるが、捨てられた猫が子供を産んで増えていく面もあるので、飼い主のモラルだけでは抑えられないのではないか。

具体的なものとして、飼い主やえさをあげる人に対する更に強力な指導、あるいは里親事業や登録制度などを含む「飼い主等モラル条例」の制定なども考えられる。

(5) 心の健康づくり対策事業【事務事業評価結果】

平成23年度 事務事業評価シート

番号	5
----	---

事務事業名	心の健康づくり対策事業(向島)	所管課	向島保健センター
施策	461 区民一人ひとりの健康づくりを支援する	連絡先	3611-6135
予算書名称	心の健康づくり対策事業費		

1. 事業の目的・手段(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか
心の問題で悩んでいる本人とその家族
【目標】 この事業によって対象をどのような状態にしたいのか
本人または家族が心の病に関する知識を得て理解を深め、社会生活を円滑に過ごすことが出来る。
【手段】 どのような方法で目標を達成するのか(具体的な事業内容)
ディケア・相談・訪問・講演会などによる。

2. 予算・決算状況(金額の単位はすべて千円)

科目	款	衛生費	項	医療費	目	医療対策費	
22年度 予算額		8,126	22年度 決算額	A	7,587	執行率	93.4%
財源内訳 (決算)	国庫支出金	都支出金	特定財源	基金	起債	一般財源	計
	0	0	0	0	0	7,587	7,587
受益者負担	無	負担内容		受益者負担合計			
担当職員数	14	年間仕事量(人工)		2.3	人コスト(常勤)	B	19,550
非常勤報酬 (決算)		他事業との按分(%)			人コスト(非常勤)	C	0
総コスト	A+B+C 27,137		前年度コスト		26,079	前年度比	1,058
補助金 *複数ある場合は代表的なものは代表的なもの(その他補助金は一覧に記載)	無	補助金名称					
	<input type="checkbox"/> 複数有り (補助金一覧に記載)	22年度 予算額	0	補助対象			
		22年度 実績額	0	算定基準・補助率			
	補助開始 年度		根拠法令				
委託の有無	無	委託費実績額	0	委託の概要			

3. 事業開始からこれまでの経過

事業年度	開始年度	昭和54年以前	終了予定	なし	経過期間	32年以上
実施根拠及び事業開始の経緯を踏まえたこれまでの事業の変遷						
<p>精神衛生法(昭和60年から精神保健福祉法に移行)に基づき、精神科医による相談を開始した。また、問題の多様化により、依存症相談グループなども開始し支援している。このように、年々、相談等は多岐に渡ってきている。</p>						

平成23年度 事務事業評価シート

4. これまでの実績

(1)実績をあらわす指標と実績値

指標名(指標の説明)	単位	年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
心の健康相談、アルコール依存症の個別相談	件	実績値	82	88	86	95
ディケア・アルコール依存症グループ・精神障害者家族会の参加人数	人	実績値	702	729	770	807
講演会参加者	人	実績値	110	178	123	167
		決算額	4,633	6,860	7,599	7,587

(2)事業の進捗分析

目標の達成に向けた事業の進捗状況とその分析(指標分析と事業実績の要因分析)

--

5. 視点別の評価(担当者評価)

			前年度評価
(1)事業の必要性	評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	A
①事業へのニーズはどのように変化しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 増大 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少		
②区が事業を実施すべき強い理由があるか	<input checked="" type="checkbox"/> 強い理由 <input type="checkbox"/> 理由あり <input type="checkbox"/> 検討の余地有り		
③事業を休止・中止した場合の影響はどうか	<input checked="" type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 中程度 <input type="checkbox"/> 小さい		
(2)事業の有効性	評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①指標の実績値は向上しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少		
②施策目標を達成するための効果的な手段であるか	<input type="checkbox"/> 最も効果的 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適切 <input type="checkbox"/> 適切とはいえない		
(3)事業の効率性	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①関連・類似事業との統合は可能か	<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 検討可能		
②事業にかかる経費は低減しているか	<input type="checkbox"/> 低減 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 増加		
③受益者負担は適正か	<input type="checkbox"/> 負担増困難 <input type="checkbox"/> 妥当 <input type="checkbox"/> 要検討 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当		
(4)協働の可能性・協働化の現状	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	A
①区民との協働実施を進めることが可能か	<input type="checkbox"/> 実施済み <input checked="" type="checkbox"/> 実施困難 <input type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能		
②民間への外部化(委託等)は可能か	<input type="checkbox"/> 実施済み <input checked="" type="checkbox"/> 実施困難 <input type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能		
③協働(委託・補助)相手先の実績向上に向けた取組み	<input type="checkbox"/> 行った <input checked="" type="checkbox"/> 特に行っていない <input type="checkbox"/> 該当		

6. 総合評価(課長評価)

C効果は高いが、拡充しても効果拡大までは期待できない(維持)

【前年度評価】 B(改善)

【評価の理由】 どの視点を重視して総合評価を行ったのか、昨年度との相違、及び目標達成に向けた今後の取組み
こころの健康についての関心は高まっており、問題も多様化している。それに対応して事業を実施していく。

※外部評価終了後に記入

【外部評価委員会からの指摘事項】

【指摘事項の反映と今後の方向性】

平成23年度 事務事業評価シート

番号	5
----	---

事務事業名	心の健康づくり対策事業(本所)		所管課	本所保健センター
施策	461	区民一人ひとりの健康づくりを支援する	連絡先	3622-9137
予算書名称	心の健康づくり対策事業費			

1. 事業の目的・手段(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか
心に悩みをもつ区民とその家族
【目標】 この事業によって対象をどのような状態にしたいのか
①精神障がい者がコミュニケーション能力を高めたり、トレーニングを積むことにより、社会復帰を目指す ②心に悩みをもつ者及びその家族が、心の悩みを解決できる
【手段】 どのような方法で目標を達成するのか(具体的な事業内容)
相談、集団生活指導(デイケア)講演会等を実施する

2. 予算・決算状況(金額の単位はすべて千円)

科目	款	衛生費	項	医療費	目	医療対策費	
22年度 予算額		5,198	22年度 決算額	A	4,543	執行率 87.4%	
財源内訳 (決算)	国庫支出金	都支出金	特定財源	基金	起債	一般財源	計
	0	0	0	0	0	4,543	4,543
受益者負担	無	負担内容			受益者負担合計		
担当職員数	14	年間仕事量(人工)		2.4	人コスト(常勤)	B	20,400
非常勤報酬 (決算)		他事業との按分(%)			人コスト(非常勤)	C	0
総コスト	A+B+C	24,943	前年度コスト		25,568	前年度比	▲ 625
補助金 *複数ある場合 は代表的なもの (その他補助金は 一覧に記載)	無	補助金名称					
	<input type="checkbox"/> 複数有り (補助金一 覧に記載)	22年度 予算額	0	補助対象			
		22年度 実績額	0	算定基準・補 助率			
		補助開始 年度		根拠法令			
委託の有無	無	委託費実績額	0	委託の概要			

3. 事業開始からこれまでの経過

事業年度	開始年度	昭和54年以前	終了予定	なし	経過期間	32年以上
実施根拠及び事業開始の経緯を踏まえたこれまでの事業の変遷						
精神衛生法に基づき精神科医による相談を開始。(昭和60年から精神保健福祉法に移行)						

平成23年度 事務事業評価シート

4. これまでの実績

(1)実績をあらわす指標と実績値

指標名(指標の説明)	単位	年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
健康相談(心の健康相談・思春期相談)延べ人数	人	実績値	64	82	78	95
集団生活指導(デイケア)、心の病を持つ方の家族会参加者延べ人数	人	実績値	605	559	580	648
講演会(講演会・連続講座)参加者延べ人数	人	実績値	142	114	152	157
		決算額	3,139	3,908	4,448	4,543

(2)事業の進捗分析

目標の達成に向けた事業の進捗状況とその分析(指標分析と事業実績の要因分析)

社会情勢や環境の変化により、メンタルヘルスの問題を抱える人が増えている。それに伴い、相談の実績、その他の事業については増加傾向にある。来所者に対する相談およびデイケア参加者を中心とした精神障害者の日常生活支援の必要があり、今後も継続して事業を行っていく。

5. 視点別の評価(担当者評価)

5. 視点別の評価(担当者評価)			前年度評価
(1)事業の必要性	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①事業へのニーズはどのように変化しているか	<input type="checkbox"/> 増大 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少		
②区が事業を実施すべき強い理由があるか	<input type="checkbox"/> 強い理由 <input checked="" type="checkbox"/> 理由あり <input type="checkbox"/> 検討の余地有り		
③事業を休止・中止した場合の影響はどうか	<input checked="" type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 中程度 <input type="checkbox"/> さい		
(2)事業の有効性	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①指標の実績値は向上しているか	<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少		
②施策目標を達成するための効果的な手段であるか	<input type="checkbox"/> 最も効果的 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適切 <input type="checkbox"/> 適切とはいえない		
(3)事業の効率性	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①関連・類似事業との統合は可能か	<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 検討可能		
②事業にかかる経費は低減しているか	<input type="checkbox"/> 低減 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 増加		
③受益者負担は適正か	<input checked="" type="checkbox"/> 負担増困難 <input type="checkbox"/> 妥当 <input type="checkbox"/> 要検討 <input type="checkbox"/> 非該当		
(4)協働の可能性・協働化の現状	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①区民との協働実施を進めることが可能か	<input type="checkbox"/> 実施済み <input checked="" type="checkbox"/> 実施困難 <input type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能		
②民間への外部化(委託等)は可能か	<input type="checkbox"/> 実施済み <input checked="" type="checkbox"/> 実施困難 <input type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能		
③協働(委託・補助)相手先の実績向上に向けた取組み	<input type="checkbox"/> 行った <input type="checkbox"/> 時に行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 該当		

6. 総合評価(課長評価)

C効果は高いが、拡充しても効果拡大までは期待できない(維持)

【前年度評価】 B(改善)

【評価の理由】 どの視点を重視して総合評価を行ったのか、昨年度との相違、及び目標達成に向けた今後の取組み

デイケアについては、社会復帰のための事業とはいえ、実情は「居場所づくり」となってしまう。特定の人に手厚くサービスを提供することが果たして区の事業として適切かどうかという点について検討する余地がある。また、適切なサービス提供の見地からも障害者福祉課で3障害として対応するのがよいと考える。保健衛生担当部においては、今後はむしろ自殺防止対策のためのうつ対策を強化すべきである。

※外部評価終了後に記入

【外部評価委員会からの指摘事項】

【指摘事項の反映と今後の方向性】

(5) 心の健康づくり対策事業【区民行政評価結果】

事業の目的・手段、実績（指標）に関する指摘事項

対象者の問題解決までには相当の時間を要するので、本事業の実績が徐々に上がれば良いというものではない。短期・中期的に事業の進捗やその効果を管理できる指標の設定も考えるべきである。これは、目標である「医療に結び付ける、安定的に通院できる状況をつくる」と関係のある指標とすべきである。

向島保健センターと本所保健センターの事業は何が異なるのかが分かるよう、地域性についての記載が必要である。また、実績値として、トラブル件数などを把握してはどうか。

視点別の評価（事業の必要性・有効性・効率性、協働の可能性等）に関する指摘

最近ではうつ病が多いが、突然興奮するようなケースもある。このような症状・状況であれば病院、またこの場合には保健所といった線引きが必要ではないか。また、相談を受ける人の指導なども必要ではないか。

行政による健康づくり事業以外にも、直接医療機関に相談する方もいる。その点から町会・自治会や民生委員と情報共有を図りながら、（難しいが）課題解決につなげるべきである。

行政としてこの領域でどこまで区民に手を差し伸べるのかという議論に尽きる。重い課題であり、行政が行うべき必要がある事業なので、関連部署・機関等と情報共有しながら進めていく必要がある。

総合評価に関する指摘事項

社会的ニーズも強く、対象者も増えており、評価理由は適切である。対象は本人と家族がメインのようだが、民生委員には、入口のところで家族や本人から相談ある。その際、最初の対応について行政からの助言を頂けると助かる。

障害者自立支援法が成立し、各市区町村が業務を行うこととされた。主管部局は「受け身」の立場にならないよう、障害者福祉課等の関連部署とよく議論し、今後の事業のあり方について調整していく必要がある。

評価理由は適切だが、メンタルヘルスの問題防止など根本的な策の模索も必要である。

(6) 介護予防事業【事務事業評価結果】

平成23年度 事務事業評価シート

番号	6
----	---

事務事業名	向島保健センター介護予防事業(リハビリグループ)	所管課	向島保健センター
施策	461 区民一人ひとりの健康づくりを支援する	連絡先	3611-6135
予算書名称	健康づくりから介護予防事業費(一般高齢者施策)		

1. 事業の目的・手段(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか
中途障害などで在宅療養中の原則65歳以上の区民と虚弱高齢区民
【目標】 この事業によって対象をどのような状態にしたいのか
地域の自主的活動に参加し、仲間作りをすることで、閉じこもりや寝たきりを予防できている。
【手段】 どのような方法で目標を達成するのか(具体的な事業内容)
各地域で自主的活動を目指すリハビリグループの場を提供する。

2. 予算・決算状況(金額の単位はすべて千円)

科目	款	地域支援事業費	項	介護予防事業費	目	介護予防事業費	
22年度 予算額		2,160	22年度 決算額	A	2,071	執行率	95.9%
財源内訳 (決算)	国庫支出金	都支出金	特定財源	基金	起債	一般財源	計
	518	259	414	621	0	259	2,071
受益者負担	無	負担内容			受益者負担合計		
担当職員数	16	年間仕事量(人工)		0.6	人コスト(常勤)	B	5,100
非常勤報酬 (決算)		他事業との按分(%)			人コスト(非常勤)	C	0
総コスト	A+B+C		7,171	前年度コスト	5,941	前年度比	1,230
補助金 *複数ある場合は代表的なもの(その他補助金は一覧に記載)	無	補助金名称			補助対象		
	<input type="checkbox"/> 複数有り (補助金一覧に記載)	22年度 予算額			算定基準・補助率		
		22年度 実績額			根拠法令		
		補助開始 年度					
委託の有無	無	委託費実績額	0	委託の概要			

3. 事業開始からこれまでの経過

事業年度	開始年度	昭和57年度	終了予定	経過期間	29年
実施根拠及び事業開始の経緯を踏まえたこれまでの事業の変遷					
介護保険法、健康増進法、区民の健康づくり総合計画 約30年前から、保健師の地区活動としてリハビリ教室を立ち上げ、老人保健法における機能訓練として実施してきた。 介護保険改正後も障害者の閉じこもり予防の一環として実施してきた。平成20年度からは、地域リハビリグループに 名称を変更し自主活動化を目指してきたが、平成22年度にその目標を達成した。					

平成23年度 事務事業評価シート

4. これまでの実績

(1)実績をあらわす指標と実績値

指標名(指標の説明)	単位	年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
各グループの参加延べ人数(実施回数)	人(回)	実績値	740(58)	651(58)	610(60)	479(60)
リハビリ運営委員会(リハビリ大会会議も含む・両センター合同)	人	実績値	75	68	72	75
		決算額	2,904	2,204	2,131	2,071

(2)事業の進捗分析

目標の達成に向けた事業の進捗状況とその分析(指標分析と事業実績の要因分析)

リハビリグループについては、活動を自主化するため、利用者代表の運営委員会を実施しながら準備を進めてきたが、完全自主化の見通しが立った。そのため、平成22年度で、介護予防事業は終了し、改めて、地域健康づくり事業として、別の形で地域自主リハビリグループの支援を行っていく。

5. 視点別の評価(担当者評価)

5. 視点別の評価(担当者評価)		前年度評価
(1)事業の必要性	評価結果 <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①事業へのニーズはどのように変化しているか	<input type="checkbox"/> 増大 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少	
②区が事業を実施すべき強い理由があるか	<input type="checkbox"/> 強い理由 <input checked="" type="checkbox"/> 理由あり <input type="checkbox"/> 検討の余地有り	
③事業を休止・中止した場合の影響はどうか	<input type="checkbox"/> 大きい <input checked="" type="checkbox"/> 中程度 <input type="checkbox"/> 小さい	
(2)事業の有効性	評価結果 <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①指標の実績値は向上しているか	<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少	
②施策目標を達成するための効果的な手段であるか	<input type="checkbox"/> 最も効果的 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適切 <input type="checkbox"/> 適切とはいえない	
(3)事業の効率性	評価結果 <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①関連・類似事業との統合は可能か	<input type="checkbox"/> できない <input checked="" type="checkbox"/> 検討可能	
②事業にかかる経費は低減しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 低減 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 増加	
③受益者負担は適正か	<input type="checkbox"/> 負担増困難 <input type="checkbox"/> 妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 要検討 <input type="checkbox"/> 非該当	
(4)協働の可能性・協働化の現状	評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
①区民との協働実施を進めることが可能か	<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み <input type="checkbox"/> 実施困難 <input type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能	
②民間への外部化(委託等)は可能か	<input type="checkbox"/> 実施済み <input type="checkbox"/> 実施困難 <input checked="" type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能	
③協働(委託・補助)相手先の実績向上に向けた取組み	<input checked="" type="checkbox"/> 行った <input type="checkbox"/> 特に行っていない <input type="checkbox"/> 非該当	

6. 総合評価(課長評価)

F:効果は高くなく、継続する客観的な理由に乏しい(見直し)

【前年度評価】 F(見直し)

【評価の理由】 どの視点を重視して総合評価を行ったのか、昨年度との相違、及び目標達成に向けた今後の取組み

平成22年度で介護予防事業としては終了し、平成23年度からは新たに地域健康づくり事業として、自主化したグループへの支援を実施している。今後も自主グループへの支援を継続していく。

※外部評価終了後に記入

【外部評価委員会からの指摘事項】

【指摘事項の反映と今後の方向性】

平成23年度 事務事業評価シート

番号	6
----	---

事務事業名	本所保健センター介護予防事業(リハビリグループ)		所管課	本所保健センター
施策	461	区民一人ひとりの健康づくりを支援する	連絡先	3622-9137
予算書名称	介護予防事業費(一般)			

1. 事業の目的・手段(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】誰(何)を対象としているのか
難病疾患や脳卒中後遺症などの中途障害を持つ区民
【目標】この事業によって対象をどのような状態にしたいのか
上記対象者が生きがいをもち、リハビリや相互の交流を通じグループの自主化を目指す。
【手段】どのような方法で目標を達成するのか(具体的な事業内容)
看護師やボランティアを導入し、参加者の自主性を尊重しながら、体操、講話、創作活動を実施する。

2. 予算・決算状況(金額の単位はすべて千円)

科目	款	地域支援事業費	項	介護予防事業費	目	介護予防事業費	
22年度 予算額		1,207	22年度 決算額	A	1,176	執行率	97.4%
財源内訳 (決算)	国庫支出金	都支出金	特定財源	基金	起債	一般財源	計
	1,176	0	0	0	0	0	1,176
受益者負担	無	負担内容			受益者負担合計		
担当職員数	13	年間仕事量(人工)		0.4	人コスト(常勤)	B	3,400
非常勤報酬 (決算)	2,735	他事業との按分(%)		33.3	人コスト(非常勤)	C	911
総コスト	A+B+C 5,487		前年度コスト		6,285	前年度比	▲ 798
補助金 *複数ある場合は 代表的なもの (その他補助金は 一覧に記載)	無	補助金名称					
	<input type="checkbox"/> 複数有り (補助金一 覧に記載)	22年度 予算額	0	補助対象			
		22年度 実績額	0	算定基準・補 助率			
		補助開始 年度		根拠法令			
委託の有無	無	委託費実績額	0	委託の概要			

3. 事業開始からこれまでの経過

事業年度	開始年度	昭和57年度	終了予定	経過期間	29年
実施根拠及び事業開始の経緯を踏まえたこれまでの事業の変遷					
<p>老人保健法の機能訓練教室として開始し、平成18年度から介護予防事業として実施してきたが、平成23年度から地域健康づくり事業の一環として実施することとなった。 (平成23年度の予算科目) (会計)一般会計(款)衛生費(項)区民健康費(目)健康づくり推進費</p>					

4. これまでの実績

平成23年度 事務事業評価シート

(1) 実績をあらわす指標と実績値

指標名(指標の説明)	単位	年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
参加延人数	人	実績値	545	493	426	400
実施延回数	回	実績値	43	32	32	32
		決算額	2,010	1,242	1,160	1,175

(2) 事業の進捗分析

目標の達成に向けた事業の進捗状況とその分析(指標分析と事業実績の要因分析)

自主活動への移行に向けて準備を進めていく。

5. 視点別の評価(担当者評価)

5. 視点別の評価(担当者評価)			前年度評価
(1) 事業の必要性	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C	C
① 事業へのニーズはどのように変化しているか	<input type="checkbox"/> 増大 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少		
② 区が事業を実施すべき強い理由があるか	<input type="checkbox"/> 強い理由 <input type="checkbox"/> 理由あり <input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地有り		
③ 事業を休止・中止した場合の影響はどうか	<input type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 中程度 <input checked="" type="checkbox"/> 小さい		
(2) 事業の有効性	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
① 指標の実績値は向上しているか	<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少		
② 施策目標を達成するための効果的な手段であるか	<input type="checkbox"/> 最も効果的 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適切 <input type="checkbox"/> 適切とはいえない		
(3) 事業の効率性	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	B
① 関連・類似事業との統合は可能か	<input type="checkbox"/> できない <input checked="" type="checkbox"/> 検討可能		
② 事業にかかる経費は低減しているか	<input type="checkbox"/> 低減 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 増加		
③ 受益者負担は適正か	<input checked="" type="checkbox"/> 負担増困難 <input type="checkbox"/> 妥当 <input type="checkbox"/> 要検討 <input type="checkbox"/> 非該当		
(4) 協働の可能性・協働化の現状	評価結果	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C	B
① 区民との協働実施を進めることが可能か	<input type="checkbox"/> 実施済み <input type="checkbox"/> 実施困難 <input checked="" type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能		
② 民間への外部化(委託等)は可能か	<input type="checkbox"/> 実施済み <input checked="" type="checkbox"/> 実施困難 <input type="checkbox"/> 検討可 <input type="checkbox"/> 実施可能		
③ 協働(委託・補助)相手先の実績向上に向けた取組み	<input type="checkbox"/> 行った <input type="checkbox"/> 持に行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 非該当		

6. 総合評価(課長評価)

F: 効果は高くなく、継続する客観的な理由に乏しい(見直し)

【前年度評価】 F(見直し)

【評価の理由】 どの視点を重視して総合評価を行ったのか、昨年度との相違、及び目標達成に向けた今後の取組み

平成22年度見直し済みであり、23年度からは地域健康づくり事業に統合された。今後は適切な支援のもと自主グループ化をさらに進めていく。また、ゆくゆくは協働により地域健康づくりに貢献していくようはたらきかける。

※外部評価終了後に記入

【外部評価委員会からの指摘事項】

【指摘事項の反映と今後の方向性】

(6) 介護予防事業【区民行政評価結果】

事業の目的・手段、実績（指標）に関する指摘事項

本事業が介護予防の実現として効果があるのかについて、指標で示していく必要がある。継続していく場合、引き続きデータとして評価結果や改善度を示すことが必要である。

グループの自主化は手段であって目的ではない。また、自主活動化により、自ずと進捗状況の把握が困難になると思われる。現在の事業目標と実績管理の方法が互いに整合性のある形になっているかよく確認して頂きたい。

自主グループ化するのは理解できるが、その場合に必要経費について判断する材料があれば、行政とボランティア活動の費用対効果の効果測定が可能となる。担当部局として全体を見直ししていく考えはあるようなので、引き続き協議をして、大きく見直すのであれば行政から民間への方向で検討して頂きたい。

視点別の評価（事業の必要性・有効性・効率性、協働の可能性等）に関する指摘

要介護者について、世帯ごとで一定程度の面倒を見られても、やはり補えないところはセンターや地域の人間が補っていかねばならない必要性が生じてくるので、必要な事業である。

閉じこもり、寝たきり予防への言及を入れることで、担当者評価の合理性を判定できるようになる。

保健センターが関わっていることを知らなかった。高齢者のリハビリが必要な場合、福祉部局の窓口から紹介されたところに行っている。区の福祉部局が多岐に渡っているため、区民にも分かりやすい窓口の紹介をしてもらいたい。

保健師、理学療法士などが、どの程度事業にかかわるか、人件費相当がかかってくるのがポイントである。事業については、行政が行うのではなく、自主グループ化してそれを支えていくような形をとるようにしていったら良い。

保健所に対する信頼感を参加者が意識している点が重要であり、自主グループ化によって参加者が不安になる可能性があり、協働になじませるための工夫が必要である。

総合評価に関する指摘事項

自主リハビリグループに対する支援に施策をシフトさせるにせよ、施策目標に変わりはないので、それを基にした施策の検証を行って頂きたい。また、事業の位置づけについては変える必要がある。総合評価欄には、事業の位置づけが変化した後を見据えた評価を付記すべきである。

ボランティアや医療関係者の協力体制をさらに補完する制度へシフトしていく仕組みを検討しても良いと思う。

23年度からは新たな内容で実施していることもあるため、現段階で評価が難しい。今後継続して事業を行い、その結果をもとに評価していくべきである。

専門家委員による総括【保健衛生担当】

保健福祉分野は、何をもって効果とするか分かりやすい指標がないため、必要性はなんとなくわかるのだが、それが、どのような効果になって表れたかが分かりにくい。指標化について、更なる工夫を必要とする。

この分野の特徴の1つは、「特定保健指導事業」のように、国の法律などにより区の裁量が少ないなかで事業が行われている場合が多いことである。裁量が少ないなかで、敢えて区が（横出的に）事務事業に取り組む以上、より一層、事業の「対象」「目的」「手段」が明確に記されるべきだが、現状はそうした記述はほとんどない。説明を聞かねば区が横出し事業に取り組む必然性が理解できない、という状況は好ましくない。シートに事務事業のミッションを明記すべきである。

食育の推進、特定保健指導、心の健康づくり、介護予防事業は、国の財源が入っているからやるのではなく、自治事務であるので、区としての事業を行う意味や目標をもう少し語って欲しかった。

公衆浴場の衛生設備助成は、「高齢者にここ入浴デー事業」との調整により、見直していく必要を感じた。また、猫に対する不妊等助成は、対象について、この制度を利用している人が特定の人に偏る傾向があり、その点からも、飼い主に対する啓発とその他の対応も含めて条例化により検討していく必要があるのではないか。

医師会委託事業については、常に委託料の見直し・適正化に努めていただきたい。例えば個々の医療機関の間での競争入札などの工夫も考えられないだろうか。

「心の健康づくり対策事業」（向島、本所）「介護予防事業」（向島、本所）のように、同一事業が区内複数地区で実施されている場合がある。事務事業シートに記載されている「目標」「手段」が違っているが、地区実情に合わせてきめ細かに事務事業を実施していくことはむしろ望ましい。しかし、それらに見合うだけの「手段」が設定されていない（同じことをしていて地区固有の課題を解消できるのか疑問）。特に、「4.(2)事業の進捗分析」「総合評価」の記述が抽象的であり、記述自体もないというものすらある。同一事業であるがゆえに、「(区民が)比較しやすい」という緊張感を所管課（記入者）はより強く持つべきである。

全体的には、職員の皆さんは丁寧に説明し、業務に対する熱意も高いと感じた。